第14回インフラツーリズム有識者懇談会　資料

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

1. モデル地区の取組状況

2. インフラツーリズムの更なる拡大に向けて

3. こども向けインフラツーリズムの検討について

4. 今後のスケジュール

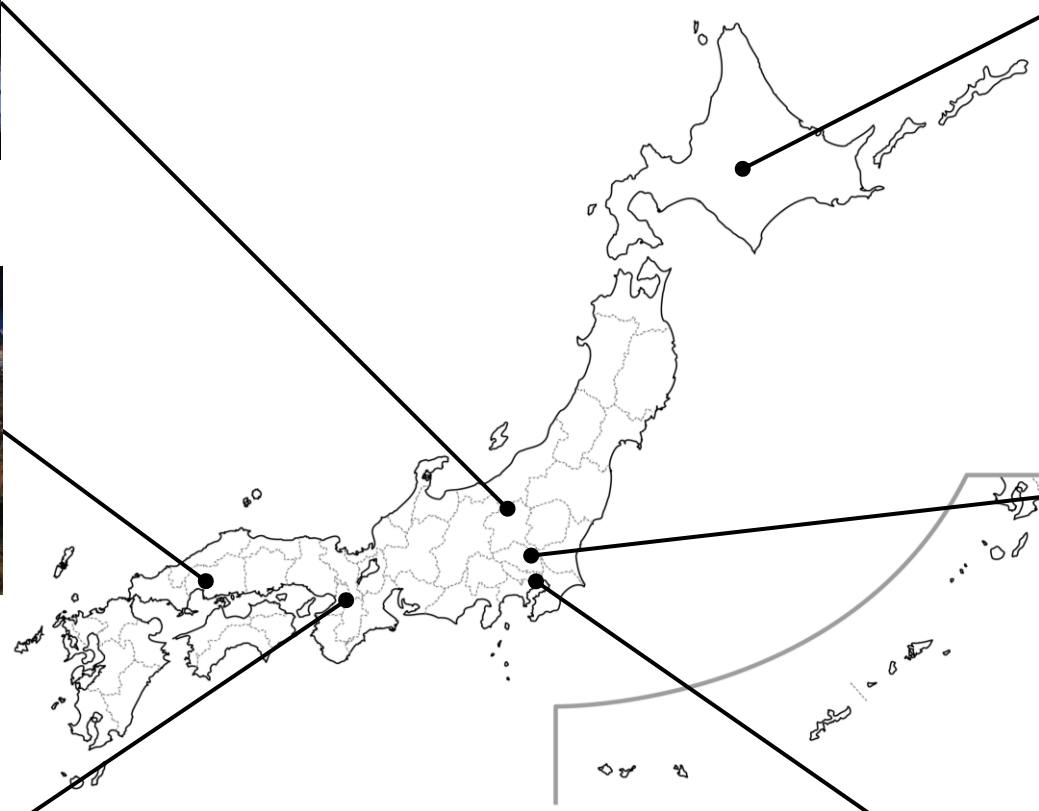
1. モデル地区の取組状況について

全国のモデル地区（令和7年3月）

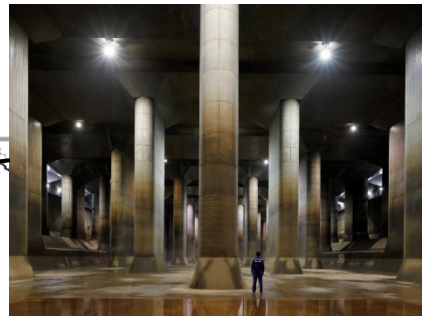
だいげんたがわ
大源太川第1号砂防堰堤
R5.8~

ぬくい
温井ダム R6.4~

かめ の せ
亀の瀬地すべり対策
R5.8~



びえいがわ
美瑛川ブロック堰堤と
とかちだけ かざん さぼう じょうほう
十勝岳火山砂防情報センター
R5.8~



しゅとけんがいかく
首都圏外郭放水路
R6.4~

しんじゅく
バスタ新宿 R6.4~

1. モデル地区の取組状況

令和5年8月に選定されたモデル地区

○青い池（美瑛川ブロック堰堤）と十勝岳火山砂防情報センター（北海道美瑛町）

- 十勝岳の火山泥流から美瑛町を守るブロック堰堤により青い池が形成された有名観光スポット
- ジオパークと連携し、火山との共生をテーマに学習する観光地との連携モデル

○大源太川第1号砂防堰堤（新潟県湯沢町）

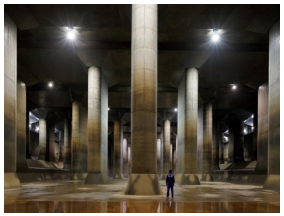
- 昭和14年に完成したアーチ式砂防堰堤で登録有形文化財、選奨土木遺産
- 砂防施設をツーリズムとして見せるための検討を進めるとともに、周辺観光資源を組み合わせた連携モデル

○亀の瀬地すべり対策（大阪府柏原町・奈良県三郷町）

- 全国有数の大規模な地すべり対策事業で、集水井や排水トンネルの見学が可能
- 龍田古道や明治時代の鉄道トンネルなどを組み合わせ、歴史を紹介・学習する既存見学会の発展モデル

令和6年4月に選定されたモデル地区

○首都圏外郭放水路（埼玉県春日部市）



- 周辺の中小河川の洪水を地下トンネルを通して江戸川に排水する世界最大級の地下放水路
- 地域周遊につながり、インバウンド対応を含めたインフラツーリズムの更なる発展を検討

○バスタ新宿（東京都渋谷区）

- 日本最大級の交通結節点事業として、高速バス・タクシーの乗車場や歩行者空間などとJR施設を一体的に集約し、新宿駅付近の線路上空に整備
- 施設には高速バスが1日1,200便、300都市に就航し、そのオペレーション等の施設自体でのインフラツーリズムや高速バスを通じた地方誘客について検討

○温井ダム（広島県安芸太田町）

- 西日本で1番の高さ（アーチ式ダムでは、黒部ダムに次ぐ全国2番目）
- 中国地方初のモデル地区となり、将来的な河川空間のオープン化を見据え、ダムツアーに加え、湖面や周辺活動の活性化を検討

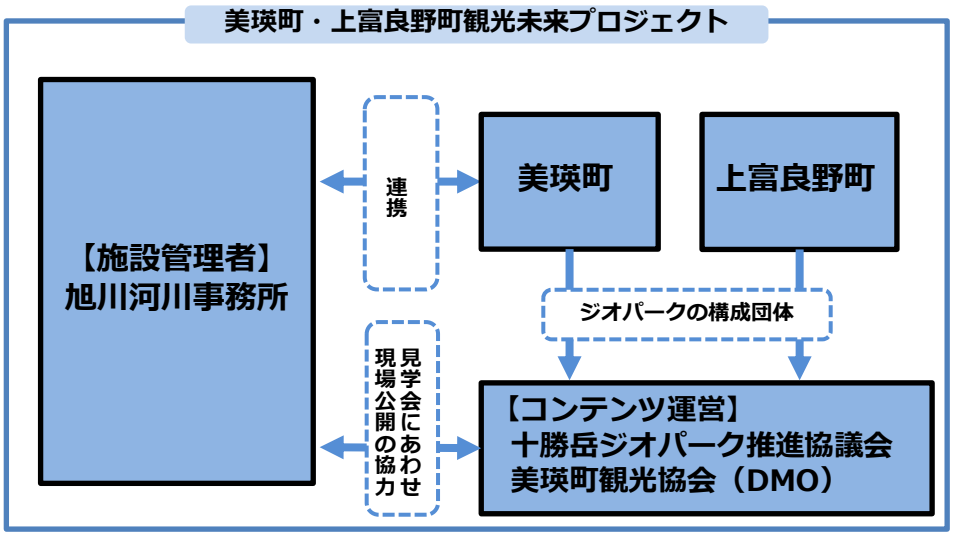
3. 各モデル地区の取組状況

●：現地会議イベント他　★：主な関係者打合せ等

	R6年度												R7年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	予定
美瑛川ブロック堰堤等		関係者打合せ R6キックオフ	現地会議・関係者打合せ				現地会議・モニターツアー			砂防情報センターの改修		現地総括会議予定	インフラジオツアーの販売開始 新砂防情報センターの運用
大源太川第1号砂防堰堤	関係者打合せ R6キックオフ		現地会議・関係者打合せ		8～10月 見学ツアー販売		モニターツアー					現地総括会議予定	大源太川第一号砂防堰堤見学ツアーの販売
亀の瀬地すべり対策	関係者打合せ R6キックオフ 資料室の開設	現地会議・関係者打合せ			現地会議・関係者打合せ ボランティアガイド 無料ツアー			インバウンド・一般向け・学生向け モニターツアー				現地総括会議	ガイドの有料化やツアー販売の検討
首都圏外郭放水路	関係者打合せ R6キックオフ	現地会議・関係者打合せ			取組について企画立案					モニターツアー		新企画記者会見 新コース販売開始	年間来場者10万人に向けて、首都圏外郭放水路の8つのパワーアップ計画を公表
バスタ新宿	関係者打合せ R6キックオフ	現地会議・関係者打合せ			取組について企画立案					関係者と企画について意見交換			地方誘客とバスタ新宿インフラツアーの運用に向けて検討
温井ダム	関係者打合せ R6キックオフ	現地会議・関係者打合せ				体制構築に向け検討				現地会議・関係者打合せ			体制の構築を図る

1. モデル地区の取組状況 青い池と十勝岳火山砂防情報センター

体制・運営スキーム



モデル地区の実施事項

■令和５年度
（11月）現地会議（キックオフ）
（12月）オンライン会議：ガイドシナリオ作成開始
（1月）　現地会議：インフラジオツーリズムの検討
（2月）　パンフレット作成
（3月）　現地会議：協議会の発足、ガイディングシナリオの作成

■令和6年度
（５月）　オンライン会議（R6キックオフ）
（7月）　現地会議：上富良野コース視察
（9月）　現地会議：砂防情報センター改修計画確認
（10月）　現地会議：モニターツアー
（1～2月）3月の総括に向けた運営体制・受入体制の確認
（3月）　現地会議（予定）：総括

モデル地区の具体的な取組

①戦略策定	• 火山防災を伝えるために、**十勝岳ジオパークと連携したインフラ・ジオツーリズムの概念の提唱**とコンテンツ開発 • オーバーツーリズム、通過型観光という地域の課題に、滞在時間を延長し地域の消費拡大につなげる取り組み • 十勝岳火山砂防情報センターの改修により、防災を伝える展示と地域の観光拠点としての活用のための検討
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	• 十勝岳ジオパーク推進協議会を核に、北海道開発局、美瑛町、上富良野町等による**『美瑛町・上富良野町観光未来プロジェクト』を発足し、運営体制・受入体制を構築**
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	**• インフラ・ジオツーリズムで伝える火山防災と地域をつなぐストーリー整理** • ストーリーにあわせたツアールートを検討し、ガイドシナリオを整理 **• 十勝岳火山砂防情報センターを、火山防災を情報発信するとともに地域の観光拠点として活用できるように改修**
④対外的な発信 情報発信/販路構築	• ツアーパンフレット等を活用し、今後、地域の担い手により発信・販売

1. モデル地区の取組状況 青い池と十勝岳火山砂防情報センター

地域の狙い

○地域消費額の増加へ
オーバーツーリズム・通過型観光という地域の課題に、コンテンツにより、滞在時間を延長し地域の消費拡大につなげたい

×

有料ツアー造成にあたっての検討

○周辺観光資源との連携
インフラ施設の特徴を踏まえると、施設単独よりも周辺観光資源との連携が重要。地域ストーリーのあるツアーについて検討

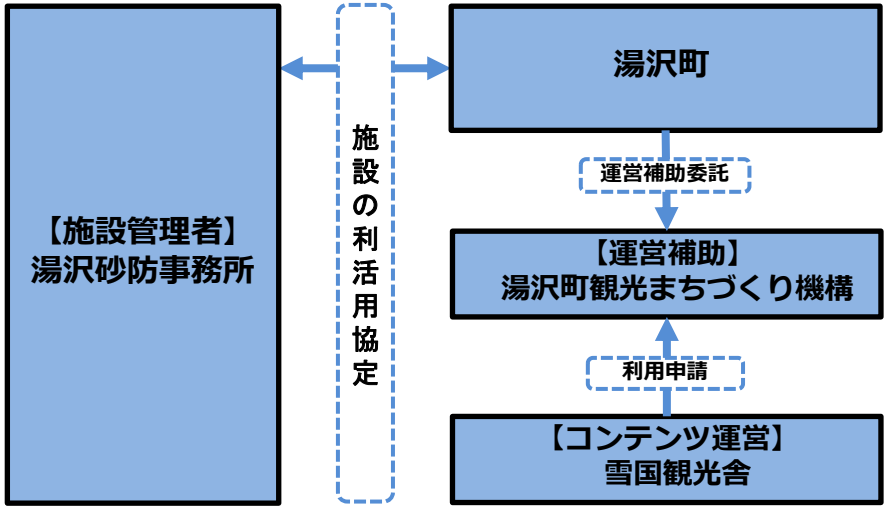
対応するための取組

○地域の既存の取組と連携し面的なコンテンツ造成
十勝岳ジオパークと連携し、十勝岳の火山の恵みとその裏側にある自然災害を防ぐインフラを伝える**「インフラ・ジオツーリズム」を提唱**。ジオパーク協議会や美瑛町観光協会からコンテンツを提供する（6月ごろ開始予定）

○展示施設を滞在拠点へレベルアップ
インフラツーリズムの取組みをきっかけに**十勝岳火山砂防情報センターの展示**を通じて、火山防災を観光視点で楽しく伝えることができ、観光の滞在拠点となるように改修する（3月下旬に完了予定）

1. モデル地区の取組状況　大源太川第1号砂防堰堤

体制・運営スキーム



モデル地区の実施事項

■令和５年度
（10月）現地会議（キックオフ）
（12月）地域関係者の体制を模索
（2月）湯沢町、雪国観光舎、湯沢町観光まちづくり機構と個別意見交換会実施

■令和６年度
（4月）オンライン会議（R6キックオフ）
（5月）現地会議：コンテンツ造成に向けた会議
（6月）現地会議：コンテンツ案を視察
（7月）ポケットガイド案を作成
（8月）コンテンツ販売開始
（10月）モニターツアー

モデル地区の具体的な取組

①戦略策定	**・インフラ施設の規模を踏まえて、周辺観光資源と連携したコンテンツを検討** ・湯沢町の宿泊客が多いという特性を踏まえて、そのチェックイン前後にあわせたコンテンツを検討
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	**・大源太砂防設備他利活用協議会の覚書を活用**した湯沢町と湯沢町観光まちづくり機構による施設利用の受入体制をベースに、雪国観光舎による販売体制を確認
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	**・e-bikeを移動手段としても活用しつつ、地域を広域に周遊する体験型コンテンツとして造成** ・インフラ施設とともに地域周遊時の説明を補完する（仮称）ポケットガイドを作成
④対外的な発信 情報発信/販路構築	・雪国観光舎のホームページでコンテンツ情報の発信 ・湯沢町広報誌でコンテンツ情報の発信

1. モデル地区の取組状況　大源太川第1号砂防堰堤

地域の狙い

○地域滞在時間の延長へ
関東圏からアクセスしやすいが、日帰り客が多い状況。取組を通じて地域滞在時間を伸ばし、さらに宿泊客にもつなげたい。

×

有料ツアー造成にあたっての検討

○周辺観光資源との連携
インフラ施設の立地や特徴を踏まえると、施設単独よりも周辺観光資源との連携が重要。地域ストーリーのあるツアーについて検討

○仮排水路内で案内できる資料があるとよい
仮排水路内で説明できる資料が設置できないことを踏まえて、ガイドを補助できる資料があるとよい

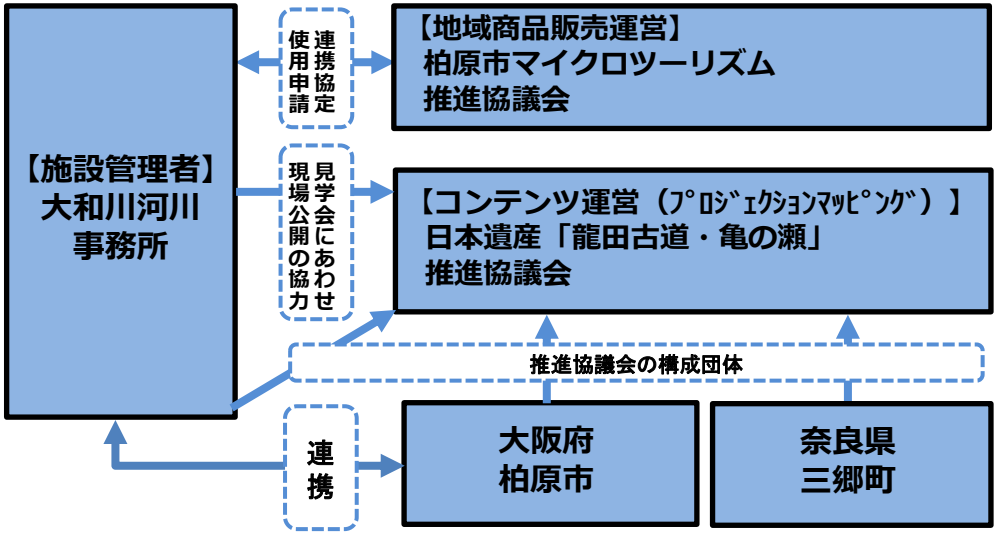
対応するための取組

○地域のサイクルルートの取組ベースに地域周遊コンテンツ造成
立地も踏まえて貸自転車で周辺観光資源を巡り、地域について学びながら最終目的地にインフラ施設とするコンテンツを造成

○仮排水路内に加え、地域周遊で活用できるポケットガイドを整理
砂防堰堤面では、仮排水路内での活用を想定し、建設から地域の現在までを学べ、地域面では地域周遊で活用できるように作成

1. モデル地区の取組状況　亀の瀬地すべり対策

体制・運営スキーム



モデル地区の実施事項

■令和５年度
（8月）現地会議（キックオフ）
（適宜）有識者と打合せを行い新資料室を検討
（適宜）地域とのワークショップを通じて、地域の賑わいづくり、
　　ガイド体制などの事業基盤の構築
（3月）新資料室の完成、ボランティアガイドによる無料ツアー開始

■令和６年度
（４月）オンライン会議（R6キックオフ）
（５月）現地会議：現状確認・意見交換
（適宜）今年度の取組について打ち合わせ
（11月）官民連携イベント開催
（12-2月）モニターツアー開催（インバウンド、インフラ、学校）

モデル地区の具体的な取組

①戦略策定	• 既存の亀の瀬地すべり対策インフラツーリズムを更に発展させるとともに、日本遺産推進協議会の取組と連携し、『新たな資料室を作る』、『地域による亀の瀬地すべり対策インフラツーリズムの運営体制を作る』、『地域ブランド商品の販売・イベントの実施などの賑わいを作る』という３つの取組を目標に事業を実施
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	• 新たな亀の瀬地すべり歴史資料室の整備し、来館者の受け入れ環境を整備 • **亀の瀬地すべり対策インフラツーズムボランティアガイドを募集し、無料のガイド体制を構築** • 柏原市マイクロツーリズム推進協議会が、亀の瀬地すべり歴史資料室の一部を使用申請し、**亀の瀬関連地域商品の販売体制の構築、将来的な有料ツアーの案内体制も試行実施**
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	• **亀の瀬地すべり資料室を、地すべりの歴史や対策内容を発信するとともに、地域の観光拠点として活用できるように整備** • 亀の瀬地すべり対策内容が理解出来るARアプリ「亀の瀬地すべりナビ」を整備したコンテンツ造成。 • 日本遺産「龍田古道・亀の瀬」推進協議会が整備した**プロジェクションマッピングも組み合わせたコンテンツを造成**
④対外的な発信 情報発信/販路構築	• 新たに亀の瀬地すべり歴史資料室案内**ウェブサイトを構築するとともに、SNS等を活用し情報発信** • 新たな亀の瀬地すべり歴史資料室整備にともない、様々なメディアからの取材を受入、情報を発信 • モニターツアーを実施し、地元旅行会社と連携したインフラツーリズムツアーの販路構築を検討中

1. モデル地区の取組状況　亀の瀬地すべり対策工事

地域の狙い

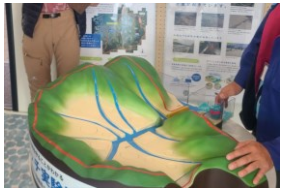
〇地域の面的な賑わいへ
　令和2年度以降、亀の瀬地区が日本遺産に認定され、地域関係者や地元住民が活発に活動しており、一層の地域への来訪者増加させ、広域な地域の面的な賑わいづくりを行いたい

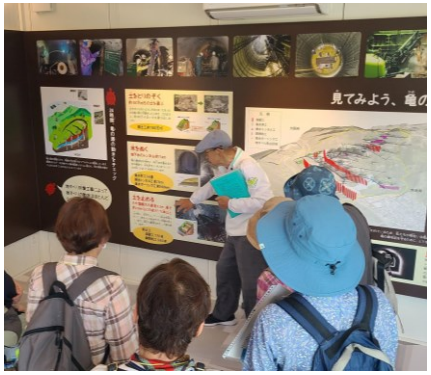
×

事務所の狙い

〇地域の思いに応えたい
　亀の瀬地すべりインフラツーリズムの実施により、来場者が増加している一方で、資料室の老朽化や、見学者の駐車スペース不足の課題、観光視点でより楽しく事業を説明したい

対応するための取組





〇新たに魅力的な資料室を整備
　資料室と展示物を有識者の助言も踏まえ更新。亀の瀬地すべりの歴史から対策工事、さらに流域治水まで楽しみながら分かりやすく伝えることが可能に

〇地元住民によるガイド体制を構築
　地元住民と連携し、これまで事務所職員が案内していた見学会を、地元住民によるガイド体制を構築

〇地域関係者との連携体制を構築
　地域関係者と賑わい創出のためのワークショップを重ね、地域とのインフラツーリズム連携体制を構築。新資料室内での地域商品の販売や、敷地内を活用したイベントの実施

1. モデル地区の取組状況　令和5年度選定箇所の総括

＜施設の特徴＞

- 単独で大規模な施設はなく、関係する施設が点在。
- モデル地区では、施設に加え、資料室や周辺観光資源等を活用し、コンテンツ化

＜取組みの成果・課題＞

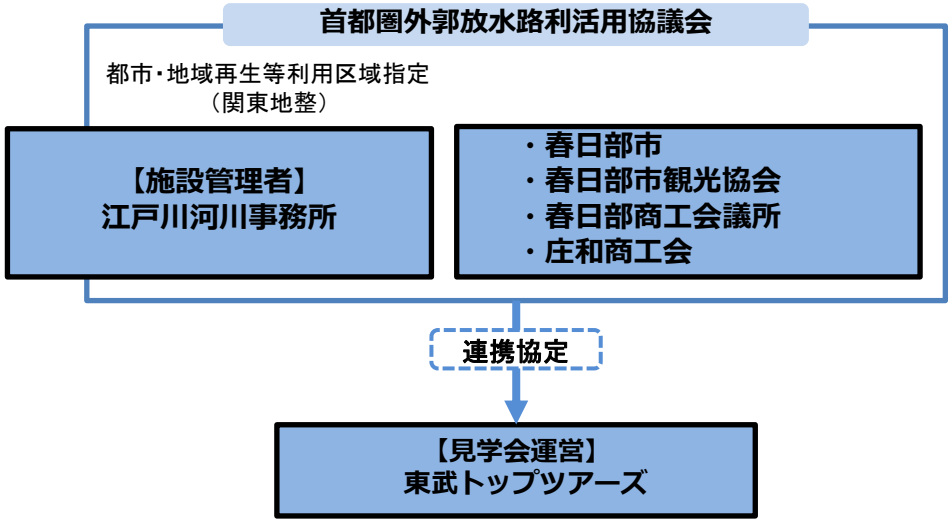
- インフラそのものの魅力だけではなく、インフラのものがたりを楽しく伝える仕掛けや、周辺観光資源・観光コンテンツとの連携が一層必要
- 収益型のインフラツーリズムにおいて、持続的な観光コンテンツ化を図るには、事前の期待や支払う金額に相応する価値を提供するためのコンテンツの磨きあげが必要。ただし、磨き上げにもコストがかかることや、提供するツアーの金額の設定が過度に負担感の大きいものとならないよう、注意が必要。
- インフラを活用したい地域等とインフラ管理者が連携して磨き上げを図ることが有効

周辺観光資源と連携した事例（大源太川第1号砂防堰堤）

コンテンツの磨き上げ例（亀の瀬地すべり対策）

1. モデル地区の取組状況　首都圏外郭放水路

体制・運営スキーム



モデル地区の実施事項

■令和６年度
（４月）学識者に参加いただき打合せを開催（キックオフ）
（５月）現地調査及び会議開催：第３立坑を確認
（適宜）打合せ：
・本取組の目標「災害の自分事化」を通じて災害から国民の命を守ることを目指し、年間来場者数10万人を目指す
・第3立坑を含む新コースの検討や既存のコースの磨き上げ
・探究的な学習やマインクラフトのステージ作成などこども向けの新コンテンツを検討
・事務所と春日部市の若手職員により、地域周遊につなげるためのワークショップを実施
（2月）　旅行会社向けモニターツアーの実施、ライトアップの検証
（3月）　新企画を春日部市長と共同記者会見により発表

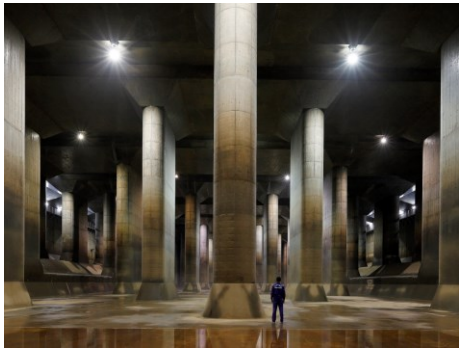
■令和7年度
（4月以降）　新コースなど新規コンテンツを順時開始
※一部6年度から開始中

モデル地の具体的な取組

①戦略策定	・「災害の自分事化」を通じて国民の命を守ることを目指し、新たに**「観光の視点」**で子供から大人まで楽しく防災の知識を身に付けられるよう、本企画を通じて令和５年の年間来場者約6.2万人から10万人への来場者増を目指す **・激甚化する災害から命を守る方法を観光の視点でより一層楽しく伝えるために、関東地方整備局の若手が中心となり、「防災ツーリズム」のプロジェクトを官民合同で立ち上げ、地元春日部市等の観光振興につなげる** ・社会科見学から探究的な学習やマインクラフト企画により、**こどもに対して防災を伝える新コンテンツを模索する**
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	・従来より、首都圏外郭放水路利活用協議会による事業基盤を構築済み
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	**・「災害の自分事化」10万人計画と銘打ち、８つのパワーアップを企画** **・従来非公開だった第3立坑を見学するコンテンツを造成、調圧水槽でもライトアップと音によるコンテンツの磨き上げ** **・地元小学校への探究的な学習となる出前講座と見学会を実験的に実施し、探究的な学習コンテンツを造成**
④対外的な発信 情報発信/販路構築	・3月の春日部市長との合同記者会見を実施し、マスコミだけではなくインフルエンサーを通じて企画を発信 ・JNTOや日本観光振興協会に協力いただき、インバウンド向けマスメディアや旅行会社等に発信

1. モデル地区の取組状況　首都圏外郭放水路

事務所の狙い



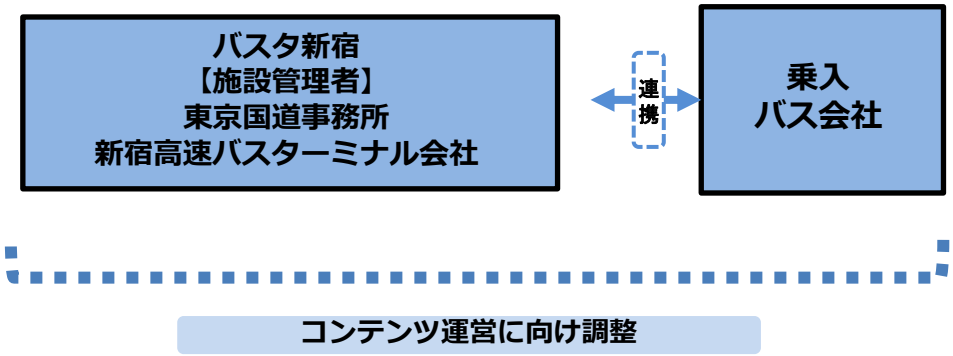
○「災害の自分事化」10万人目標
「災害の自分事化」を通じて災害から国民の命を守ることを目指し、令和5年の年間来場者数約6.2万人から10万人を目指す
○インフラツーリズムとして挑戦的取組を実施したい
既に国交省を代表するインフラツーリズムの施設の一つであるが、さらにその可能性を探るため、様々な取組やインバウンド向けを実施する

地域の現状や課題に対応するための取組

○8つのパワーアップ計画としてコンテンツ造成、令和7年より順次開始へ
・これまで非公開だった第3立坑を一般公開し、地下河川を見学するコンテンツ
・調圧水槽のライトアップによる光と音の体験コンテンツ
・こども向けの防災学習として、探究的な学習プログラムの提供
・インバウンド向け同時翻訳システム導入
・防災コンシェルジュの設置
など8つのパワーアップに加え、これらについてJNTO等と連携した広報を展開することにより、来場者をより増やし「災害の自分事化」につなげる取組を令和7年より順次開始する

1. モデル地区の取組状況　バスタ新宿

体制・運営スキーム



モデル地区の実施事項

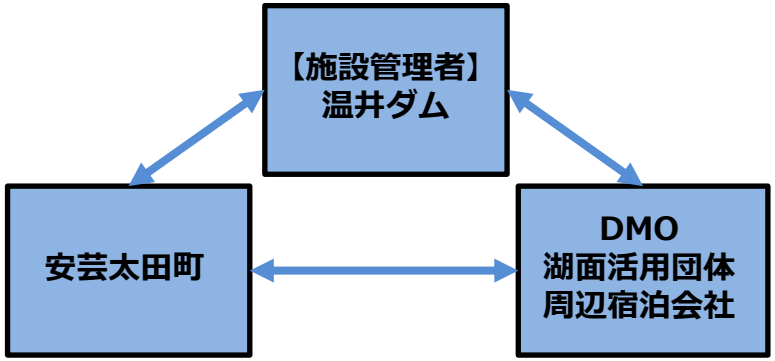
■令和6年度
（４月）関係者会議（キックオフ）
（５月）現地会議：関係者と意見交換
（適宜）打合せ
・関係者と関係構築
・本取組の目標として、バスタ新宿やバスタプロジェクトの情報発信と高速バスの利用促進に設定
・インフラツーリズムのコンテンツの方向性を検討
（1月）関係者と企画について意見交換
（2月）バスタ新宿インフラツアーや地方誘客の運用に向け、事務所と関係者で調整中

モデル地区の具体的な取組

①戦略策定	**・国土交通省としてバスタ新宿やバスタプロジェクトの更なる拡大に向けて情報発信する** ・インバウンド需要を踏まえ海外に向けて、バスタ新宿に乗り入れ高速バスの利用促進を図る
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	**・バスタ新宿インフラツアーや地方誘客の運用に向け、事務所と関係者と調整中**
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	・バスタ新宿やバスタプロジェクトの意義を観光視点で伝えるインフラツアーの素案を検討 ・高速バスの利用促進を図る取組として、インバウンド需要につなげる方法を検討
④対外的な発信 情報発信/販路構築	・今後検討する

1. モデル地区の取組状況　温井ダム

体制・運営スキーム



インフラツーリズムの推進に向け地域で協議中

モデル地区の実施事項

■令和６年度
（4月）　オンライン会議（キックオフ）
（5月）　現地会議：インフラ施設や地域を確認
（6月）　地域関係者にアンケートを実施
（以降）・地域関係者と運営体制を調整
・温井ダムの内部を含むインフラツアー検討

モデル地区の具体的な取組

①戦略策定	• ダム湖周辺の観光コンテンツや湖面アクティビティと連携し、現在ダム管理職員が行っているダム内部の見学を地域関係者に開放し観光コンテンツ化を目指す • 大田川下流部の広島市などの都市部の観光客やインバウンドを安芸太田町に誘客し、地域活性化に寄与することを目指す
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	**• 地域関係者と事業基盤の構築に向け調整中**
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	• 既に開放しているダムの監査廊の一部や資料室に加え、現在未公開であるキャットウォークやゲートなどの開放可能性を検討 • 将来的なガイドシナリオ整備に向け、現在ダム管理職員が行っていガイド内容を整理
④対外的な発信 情報発信/販路構築	• 今後検討する

1. モデル地区の取組状況 社会実験の総括

◎：実施中（実施内容・役割分担等の決定）
○：検討中（概ねの方針決定段階）
△：検討中（方針未定、着手の初期段階（課題の整理等）
－：検討未着手

整理項目	青い池（美瑛川ブロック堰堤）と十勝岳火山砂防情報センター	大源太川第1号砂防堰堤	亀の瀬地すべり対策	温井ダム	バスタ新宿	首都圏外郭放水路
①戦略策定	◎ 通過型の観光客をターゲットとしインフラ・ジオツアーの造成し、販売準備完了	◎ 宿泊客を主なターゲットとした有料ツアーを販売開始	◎ 日本遺産協議会と連携し、地域活性化に寄与する	○ 広島市などの都市部から誘客し、地域活性化に寄与する	○ バスタ新宿のインフラツアーと高速バスを活用した地方誘客を行う	**モデル地区以前から体制が構築されていることから、当初の目標に沿った評価軸にて社会実験終了を判断** **（評価軸案）** **○来場者数** **○インバウンド数** **○新コンテンツ満足度**
②事業基盤の構築（体制構築/受入環境整備）	◎ ジオパーク協議会や地域DMOによる体制構築	◎ 地域及び民間事業者による体制が構築	◎ 新たな資料室を整備し、自治体等の地域関係者等による案内体制構築	△ 自治体や地域関係者と体制調整中	○ 事務所と関係者と体制調整中	
③提供商品の造成（コンテンツ造成/ガイド整備）	◎ インフラ・ジオツアー造成ガイドマニュアル等の整備完了	◎ e-bikeを活用した地域周遊ツアーを造成 見学の説明を補完するポケットガイドを制作	◎ 新たな資料室の整備に合わせて設置した展示物と、ARアプリや既存のプロジェクトマッピングを組合せたコンテンツ造成	△ インフラ内部で開放可能な箇所を検討	○ インフラツアーや高速バスによる地方誘客の素案を検討	
④対外的な発信（情報発信/販路構築）	◎ 地域DMO等による販売及び情報発信	○ 自治体や民間事業者が、各自のツールで発信	◎ 専用ウェブサイトを構築し、情報発信	－	－	
⑤地域が主体となった観光コンテンツの実施	◎ 地域主体のツアーが令和7年6月ごろより開始	◎ 地域主体のツアーを実施	◎ 地域主体のツアーを実施さらに有料化も検討中	－	－	

令和5年度選定箇所は社会実験終了

1. モデル地区の取組状況　令和6年度選定箇所の総括

＜取組みの成果・課題＞

- 新たにインフラツーリズムの取り組みを進めている地区等（過年度選定箇所の一部含む）では、インフラツーリズムを担う民間事業者の発掘と連携に向けた調整（体制構築）に時間等を要している

※民間事業者の役割　：　ガイドの雇用等による現地説明
ツアーの受付、販路の拡大
磨き上げの企画・実施など

- 民間事業者によっては、インフラツーリズムの参画を検討するにあたり、以下のような課題があると想定される。

  - マンパワー不足
  - これまで同種の事業に携わったことがなく、ノウハウが不足
  - 有料ツアーでは失敗する可能性もあり、リスクをとることが困難　　等

- 今後、モデル地区以外でインフラツーリズムを展開する場合にも、同様のケースが生じると想定され、インフラツーリズムに取り組むメリットの理解に努めるとともに、モデル地区での取組を通じて知見の整理し、全国への展開を進めたい

2. インフラツーリズムの更なる拡大に向けて

2. インフラツーリズムの更なる拡大に向けて

- インフラツーリズムの知見を蓄積するため、令和元年度よりインフラツーリズム魅力倍増プロジェクトのモデル地区として計13箇所のインフラ施設において、社会実験を実施し、地域が主体となった観光コンテンツの実施を条件に、社会実験終了（卒業）としてきた。
- 6年間のモデル地区の取組みにより、地域が主体となった観光コンテンツ化にあたり、インフラ施設が有する条件、ポテンシャル等も重要であると考えている。
- インフラツーリズムの更なる拡大に向けて、地域の特性に応じたインフラツーリズムが展開できるよう、条件を整理し、地域が選択しやすいようにする必要がある。

⇒

論点1　これまでのモデル地区での社会実験等を踏まえて、国土交通省のインフラ施設で、地域と連携した観光コンテンツ化を実現するために、必要な条件、ポテンシャル等についてご議論いただきたい。

●考えられる必要な条件例

地域やインフラ管理者の意識	地域の担い手がインフラを観光資源と捉え、主体となりインフラツーリズムを実施したいと考えているか、インフラ管理者が地域の思いに応えれるか
施設の規模感	インフラ施設が非日常的な風景・体験を提供できるか
施設の立地	インフラ見学だけではなく、地域周遊する中での訪問が多い。周辺に観光資源がある立地か、または都市部からアクセスのしやすい立地か
予算の確保	コンテンツや体制の受入環境整備や広報などのために、地域やインフラ管理者が予算を確保しているか

2. インフラツーリズムの更なる拡大に向けて

- 地域が運営するインフラ施設の観光コンテンツ化について、インフラ施設に必要な条件（ポテンシャル）があり、国土交通省の施設でも限られてくると考えている。
- 地域が運営する観光コンテンツ化のみならず、より幅広く土木広報を推進するため、様々なポテンシャルのインフラ施設にあわせたインフラツーリズムを推進につながる方法を検討する必要がある。
- 前回の懇談会では、より幅広く推進するために、現場の自発的なモチベーションにつながる評価や表彰的な仕組みが必要とご意見いただいたところ。

論点２　インフラツーリズムの更なる発展に向け、今後の進め方についてご意見をいただきたい。

【案】新たに、地方公共団体なども含め土木広報につながっている先進的な優良事例を、効果的に幅広く示す行うことで、各地域・インフラ管理者に模範例を示すとともに、自発的な取組につなげ推進を図る

その他、更なる拡大に向けた進め方について幅広くご意見いただきたい

3. こども向けインフラツーリズムの検討について

3. こども向けインフラツーリズムの検討について

- こども家庭庁のこども未来戦略では、「公共インフラのこども向け現場見学機会の増加など、有意義な体験の場を提供する。」と位置づけられ、また建設業界からも担い手確保のため、こども向けインフラツーリズムが求められている。
- 一方、これまでのインフラツーリズムは、インフラ施設は一般の入場を考慮して建設されていないことから、安全管理や公物管理等を踏まえて、大人向けが主な対象となり、参加に年齢制限等がある場合があり、国土交通省での知見が不足している状況。

こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革のため、現場見学機会の増加と位置づけ

出典：こども家庭庁

白鳥大橋主塔登頂クルーズ（過年度のモデル地区）
小学3年生以下は参加できない

現状、国土交通省のインフラ施設では、こどもに制限がある場合や、コンテンツ造成の知見が不足

※こども基本法において、「こども」とは、心身の発達の過程にある者として定義されている

3. こども向けインフラツーリズムの検討について

- これまでのモデル地区などでは、部分的にこども向けの取組を実施してきたが、民間の鉄道会社や航空会社、工場などでは、国土交通省の現場見学会にはない取組も進んでいる状況。インフラツーリズムの新しいコンテンツの方向性を検討したい。

⇨ **論点３　今後、国土交通省のインフラ施設において、こども向けインフラツーリズムを調査・検討するにあたって、重要な観点をご議論いただきたい。**

モデル地区等での国土交通省の取組例

コンテンツの観点

探究的な学習コンテンツ
（首都圏外郭放水路）

ゲーム的なコンテンツ
−マインクラフト−
（首都圏外郭放水路）

イメージ

展示の観点

こどもが読みやすい展示
（亀の瀬地すべり対策）

広報の観点

こども向けインフラツアー広報誌
（東北地方整備局）

４．　令和7年度のスケジュール案について

4.　令和7年度のスケジュール案について

	R7			R8
有識者委員会	有識者懇談会	有識者懇談会	有識者懇談会	
インフラツーリズムの更なる拡大に向けて	令和6年度選定のモデル地区で観光コンテンツ化を実証		地域主体のツアー実施を目指す	
	委員会のご議論を踏まえて、幅広くインフラツーリズムを推進するための具体策を検討	幅広くインフラツーリズムを推進するための具体策の準備		具体策を実行
こども向けインフラツーリズムの調査について	委員会のご議論を踏まえてこども向けインフラツーリズムの発展可能性を調査	こども向けインフラツーリズムの検証方法を検討		検証へ